



〒062-0051
札幌市豊平区月寒東1条15丁目7番20号
TEL.011-598-6080 (代表)
FAX.011-598-6088

理事長 寺坂 俊介 | 院長 宮岸 隆司



患者様の紹介を「患者支援センター」までご連絡ください。

患者支援センター

TEL.011-598-1560

(FAX直通. 011-598-8210)

受付時間 / 平日9時～17時



社会医療法人 柏葉会

脳神経内科かしわば病院

病 | 院 | 案 | 内 |



院長からのメッセージ

宮岸 隆司

50年以上にわたり急性期脳神経外科診療を行ってきた柏葉脳神経外科病院の豊富なリソースをベースに、SPECTを利用したパーキンソン病や認知症の診断、振戦に対しては、MRガイド下集束超音波治療(FUS)なども自院にて行うことが可能です。

神経変性疾患患者さんには早期より在宅ケアシステムを利用したシームレスなリハビリテーションを行い、各病期ごとに患者さんの意思決定を支援できる体制を構築し良質な医療を提供していきます。

札幌市内では豊平川東側には入院設備の整った「神経内科専門病院」は少ないため、地域の患者さんに貢献していけるのではないかと考えております。



当院の特徴



脳神経内科の疾患について診断、治療、リハビリテーション、在宅での生活・介護の支援、レスパイト入院など、専門性の高い医療とケアを提供できるための体制を整えています。外来では頭痛、物忘れ、ふるえの専門外来があり、アルツハイマー病による軽度認知障害の診断と治療に対応しています。3TのMRIやSPECTなどの画像診断は診療の精度を高めています。パーキンソン病、多発性硬化症、脊髄小脳変性症をはじめとする多くの神経疾患について、入院、外来いずれにおいても多職種による医療チームが患者さん、ご家族の生活と人生に寄り添った診療とケアを継続していきます。脳神経内科領域の全ての疾患にはリハビリテーションが必要であるという考え方から、リハビリテーションには特に力を入れて、VR(バーチャル・リアリティ)など最先端の技術を取り入れながら求められる機能の向上をめざしていきます。多様なニーズに応えられるよう入院・外来リハビリ、通所・訪問リハビリを展開しています。

【病床数】
障害者病棟50床

【診療科目】
脳神経内科
リハビリテーション科

看護部について

ご挨拶

柏葉脳神経外科病院の移転後、同じ地に「脳神経内科かしわば病院」とあらためて新病院を開院いたしました。

この同地で、これまで以上に地域に根差した医療を提供できるよう取り組んでいきます。頭痛やめまい、しびれなどの精査に加えて、パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症などの専門性や医療ニーズの高い神経変性疾患、地域包括ケアシステム構築などが社会課題となっている認知症、近年治療の進歩が著しい免疫性神経疾患などが診療の対象となります。

看護部では、「らしくを知り、らしくを支える」という理念のもと、患者さん一人ひとりの個性や生活背景を尊重し、その方らしい生活を送れるよう医師、看護師、薬剤師、リハビリセラピスト、栄養士、MSWなど、多職種が連携し状態に合わせたケアを提供するチーム医療を実践しています。

看護部長 岩松 力

【看護部理念】 らしくを知り、らしくを支える

看護部基本方針

患者さん中心のケア

患者さん一人ひとりの個性、価値観、生活背景を尊重し、その人らしい生活を送れるよう、個別化されたケアを提供します。

専門性の高い看護

脳神経疾患に関する専門知識と技術を習得し、常に最新の知見を取り入れながら、安全で質の高い看護を提供します。

チーム医療の推進

医師、リハビリセラピスト、薬剤師、栄養士、MSWなど、多職種と連携し、患者さん中心のチーム医療を推進します。

患者さん・家族との共働

患者さんやご家族と積極的にコミュニケーションを取り、共に目標を設定し、達成を目指します。

地域社会との連携

地域包括ケアシステムの一員として、地域住民の健康維持・増進に貢献します。

自己研鑽

看護師一人ひとりが、専門性を高め、自己成長を図ります。

看護部目標

- 脳神経疾患に関する専門知識と技術を習得する。
- 患者さんとの信頼関係を築くためのコミュニケーションスキルを向上させる。
- チーム医療の一員として、他の医療職種と連携し協働できる能力を身につける。
- 自己評価を行い、継続的に成長できるよう努める。